

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公開番号】特開2007-293926(P2007-293926A)

【公開日】平成19年11月8日(2007.11.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-043

【出願番号】特願2007-210855(P2007-210855)

【国際特許分類】

G 0 6 Q 50/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/60 1 2 2 C

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月30日(2008.9.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

管理業務の基準管理仕様を記憶する記憶手段と、

所定の管理業務について、現行管理仕様、現行コスト、業務実施状況を受け付ける入出力手段と、

前記入出力手段により受け付けた現行管理仕様および業務実施状況と、前記記憶手段で記憶された基準管理仕様とに少なくとも基づき、前記所定の管理業務に関して品質を評価して、品質スコアを算出する品質評価手段と、

前記入出力手段により受け付けた現行管理仕様および現行コストと、前記記憶手段で記憶された基準管理仕様とに少なくとも基づき、前記所定の管理業務に関してコストを評価し、コストスコアを算出するコスト評価手段と、

前記算出した品質スコア及びコストスコアに基づいて、前記所定の管理業務について総合評価を求める総合評価手段と、を備え、

前記品質評価手段は、

現行管理仕様及び基準管理仕様に含まれる作業回数との比を、現行管理仕様が基準管理仕様をどの程度充足しているかを表す品質スコアとして算出する第 1 手段と、現行管理仕様に基づき定まる作業回数と業務実施状況に含まれる実際の作業回数との比を、実際に行われている作業が現行管理仕様をどの程度充足しているかを表す品質スコアとして算出する第 2 手段と、基準管理仕様に含まれる標準作業体制のうち関連情報の記録状況、標準作業の設定状況、作業レベル向上のための施策設定状況、作業評価基準の設定状況、作業結果の分析状況、作業品質の確認状況、および作業計画の設定状況の少なくともいずれか 1 つと業務実施状況に基づいた実際の作業体制との一致する割合を、作業体制に関して適正なマネジメントがなされているかを表す品質スコアとして算出する第 3 手段と、のうち少なくともいずれかを備え、

前記コスト評価手段は、

現行管理仕様に基づいて基準管理仕様に含まれる標準単価により見積もったコストと現行コストとの比を、現行コストの妥当性を表すコストスコアとして算出する手段と、基準管理仕様に基づいて前記標準単価により見積もったコストと現行コストとの比を、現行コストの必要十分性を表すコストスコアとして算出する手段と、のうち少なくともいずれかを備え、

前記総合評価手段は、

品質とコストの２軸から成るパラメータ空間に前記算出した品質スコア及びコストスコアをマッピングし、そのマッピング位置に基づき総合評価を求めることを特徴とする管理業務の評価システム。

【請求項２】

前記総合評価手段は、前記マッピング位置に基づいて、品質およびコストの問題の所在の有無を評価し、該評価した結果により管理業務に対する格付けをすることにより、総合評価を求めることを特徴とする請求項１に記載の管理業務の評価システム。

【請求項３】

記憶手段、入出力手段、および制御手段を含むシステムが実行する施設維持に関する管理業務の評価方法であって、

前記記憶手段が、管理業務の基準管理仕様を記憶する工程と、

前記入出力手段が、所定の管理業務について、現行管理仕様、基準管理仕様、現行コスト、業務実施状況を受け付ける工程と、

前記制御手段が、前記入出力手段により受け付けた現行管理仕様および業務実施状況と、前記記憶手段で記憶された基準管理仕様とに少なくとも基づき、前記所定の管理業務に関して品質を評価して、品質スコアを算出する品質評価工程と、

前記制御手段が、前記入出力手段により受け付けた現行管理仕様および現行コストと、前記記憶手段で記憶された基準管理仕様とに少なくとも基づき、前記所定の管理業務に関してコストを評価し、コストスコアを算出するコスト評価工程と、

前記制御手段が、前記算出した品質スコア及びコストスコアに基づいて、前記所定の管理業務について総合評価を求める総合評価工程と、を備え、

前記品質評価工程は、

現行管理仕様及び基準管理仕様に含まれる作業回数の比を、現行管理仕様が基準管理仕様をどの程度充足しているかを表す品質スコアとして算出する工程と、現行管理仕様に基づき定まる作業回数と業務実施状況に含まれる実際の作業回数との比を、実際に行われている作業が現行管理仕様をどの程度充足しているかを表す品質スコアとして算出する工程と、基準管理仕様に含まれる標準作業体制のうち関連情報の記録状況、標準作業の設定状況、作業レベル向上のための施策設定状況、作業評価基準の設定状況、作業結果の分析状況、作業品質の確認状況、および作業計画の設定状況、の少なくともいずれか１つと業務実施状況に基づいた実際の作業体制との一致する割合を、作業体制に関して適正なマネジメントがなされているかを表す品質スコアとして算出する工程と、のうち少なくともいずれかを備え、

前記コスト評価工程は、

現行管理仕様に基づいて基準管理仕様に含まれる標準単価により見積もったコストと現行コストとの比を、現行コストの妥当性を表すコストスコアとして算出する工程と、基準管理仕様に基づいて前記標準単価により見積もったコストと現行コストとの比を、現行コストの必要十分性を表すコストスコアとして算出する工程と、のうち少なくともいずれかを備え、

前記総合評価工程は、品質とコストの２軸から成るパラメータ空間に前記算出した品質スコア及びコストスコアをマッピングし、そのマッピング位置に基づき総合評価を求めることを特徴とする管理業務の評価方法。

【請求項４】

請求項３に記載の評価方法をコンピュータで実行させるためのプログラム。